

栃木県流域下水道事業の達成度評価(令和4年度末時点)

基本目標	施策目標	施策	成果指標	単位	(参考値) H30(2018) 年度	R4(2022)年度		R11(2029) 年度 目標値	達成度評価	R4(2022)年度の状況 (R4(2022)年度の取組実績)	自己評価	R5(2023)年度の取組予定	評価委員会の評価
						目標値	実績						
I 維持整備	1 下水道機能の維持向上	①効果的・計画的な維持管理の実施	処理場の処理能力	千m3/日	206.9	210.7	210.7	223.6	1 (100%)	・処理人口の増加に伴い、流入水量が現在の処理能力を上回ることに対応するため、思川浄化センター水処理施設増設工事(機械・電気設備工事)を実施した。	・思川浄化センター水処理施設増設工事(機械・電気設備工事)について、適切な工程管理を行い、計画通り完成させることができた。これにより処理場の目標処理能力を確保することができた。	・県央浄化センターにおいて、水処理施設増設工事をR4年度からR7年度で実施する。 [R5目標値 210.7千m3/日]	・処理場の処理能力の確保は計画通り進捗しており、達成度評価は妥当である。
			老朽化した幹線管渠の調査・点検	—	一巡目 (25%)	一巡目 (100%)	一巡目 (93%)	三巡目	2 (93%)	・5処理区において、合計18.4kmの調査・点検を実施した。一巡目の対象管渠130.4kmのうち、累計121.2kmの調査・点検が完了した。	・幹線管渠の調査・点検について、概ね計画通りに実施することができたが、目標値には達しなかった。	・幹線管渠の調査・点検を引き続き実施する。 [R5目標値 一巡目(100%)]	・老朽化した幹線管渠の調査・点検は目標値に到達しなかったものの、概ね計画通り進捗しており、達成度評価は妥当である。
			改築・更新を実施した主要設備数(累計)	設備	38	48	47	66	2 (98%)	・鬼怒川上流浄化センターにおいて、汚泥処理設備更新工事(機械・電気設備工事)を実施した。 ・巴波川浄化センターにおいて、汚泥処理設備更新工事(電気設備工事)を実施した。 ・資源化工場において、汚泥焼却設備更新工事(機械・電気設備工事)を実施した。	・主要施設の改築・更新について、概ね計画通りに実施することができたが、半導体不足の影響により機器製作に遅延が生じ、一部工事が完成に至らなかったことで、目標値には達しなかった。	・巴波川浄化センターにおいて、汚泥処理設備更新工事(機械設備工事)を実施する。(R4年度からの繰越工事) ・大岩藤浄化センターにおいて、汚泥処理設備更新工事(電気設備工事)を実施する。(R4年度からの繰越工事) [R5目標値 49設備 74%]	・改築・更新を実施した主要設備数は目標値に到達しなかったものの、概ね計画通り進捗しており、達成度評価は妥当である。
	2 災害に強い下水道の実現	④災害対策の推進	幹線管渠の耐震化率	%	10	51	64	100 (全体431箇所)	1 (125%)	・重要な幹線管渠の耐震化工事(マンホールと管渠接続部の可とう化)を53箇所実施した。全体431箇所のうち、累計274箇所の耐震化が完了した。	・耐震化工事が必要な箇所について、優先順位等を精査して実施したことにより、目標を上回る耐震化率を確保することができた。	・耐震化工事を68箇所実施する。 [R5目標値 79%]	・幹線管渠の耐震化率は計画を上回って確保されており、達成度評価は妥当である。
			中継ポンプ場・処理場の耐震化率	%	26	34	34	100 (全体53施設)	1 (100%)	・間々田中継ポンプ場の耐震補強工事(土木・建築)を実施した。	・間々田中継ポンプ場耐震補強工事(土木・建築)について、適切な工程管理を行い、計画通り実施することができた。これにより中継ポンプ場・処理場の目標とする耐震化率を確保することができた。	・北那須浄化センターにおいて、導水渠の耐震補強工事を実施する。 [R5目標値 19施設 36%]	・中継ポンプ場・処理場の耐震化率は計画通り確保されており、達成度評価は妥当である。
	II 環境	3 地球温暖化への対応	⑥温室効果ガス排出量の削減	再生可能エネルギー導入等によるCO ₂ 削減量	t-CO ₂ /年	3,156	3,700	4,357	4,000	1 (118%)	・各浄化センターで安定的な消化ガス発電、処理場の適正運転に努め、4,357tのCO ₂ を削減した。	・発電設備の安定稼働と処理施設の節電対策を実行し、目標以上の削減を行うことができた。	・発電設備の安定稼働に努める。 ・引き続き処理施設の節電運用に努める。 [R5目標値 3,750t-CO ₂ /年]
4 循環社会への貢献		⑦下水道資源の有効利用	下水汚泥の有効利用率	%	71	82	85	82	1 (104%)	・下水汚泥等をセメントやコンポスの原料にできる処理先に搬出するよう努め、85%が有効利用された。	・昨年に引き続き積極的な有効利用に取り組んだことにより、計画通りの有効利用率を確保することができた。	・有効利用できる処理先への搬出を行い、引き続き有効利用拡大に努める。 [R5目標値 85%]	・下水汚泥の有効利用率は計画通り推移しており、達成度評価は妥当である。
III 経営	5 財政マネジメントの向上	⑩地方公営企業法の適用	経常収支比率	%	—	100以上	96	100以上	2 (96%)	・電気料金の高騰に伴い、光熱水費等の収益的支出が増加した。	・R3に引き続きR4も電気料金等の高騰の影響が大きく、目標値には到達しなかった。	・累積欠損金の解消を図るため、費用節減等の経営効率化に努めるとともに、市町と協議の上、負担金の増額により対応する。 [R5目標値 100%以上]	・経常収支比率は目標値に到達しなかったものの、目標値との差異は不測の事態の影響によるものであり、やむを得ないものと判断でき、達成度評価は妥当である。
			企業債残高	億円	107	84	85.1	46	2	・耐震化工事等を前倒ししたことにより、企業債の新規借入が増加した。	・企業債残高は概ね計画どおり推移しているものの、工事の前倒し等により企業債の借入が増加し、目標値には到達しなかった。	・R5企業債償還金に対し、新規借入予定額が少ないため、企業債残高は減少が見込まれる。 [R5目標値 78億円]	・企業債残高は目標値に到達しなかったものの、目標値との差異は前倒し工事等の影響によるものであり、やむを得ないものと判断でき、達成度評価は妥当である。

I 維持整備
II 環境
III 経営
(経常収支比率)

(達成度評価)
1 計画通り進捗している 100%以上
2 計画とやや乖離がある 90%以上～100%未満
3 計画と乖離がある 90%未満

III 経営
(企業債残高)

(達成度評価)
1 計画通り進捗している 目標値以下
2 計画と乖離がある 目標値を超える